

之號二說未知孰是，但以後漢倭奴、倭面之號及唐書倭國、自惡其名不雅之言，攷之後說恐爲是。蓋據前說則俯就漢人之訛，據後說則甘受漢人之慢，以此爲我國之號，豈理也哉？中葉以降曰倭歌、曰倭訓、曰倭琴、因循流傳至不可改，是可歎也。

〔國號考〕倭の字

倭の字は、もともろこしの國よりつけたる名にて、その始めて見えたるは、前漢書地理志に、東夷天性柔順、異於三方之外、故孔子悼道不行、設桴於海、欲居九夷、有^{ルユエ}目也。夫、樂浪海中有倭人、分爲百餘國、^ム歲時來獻見云、といへる是なり、その後の書どもにも、みなく倭人といひ、又はぶきて倭とのみもいへり、さて倭とはいかなる意にて名づけつるにか、その由はさだかに見えたる事はないけれども、かの漢書に、東夷天性柔順と書いて、有倭人とづらねいへるを思へば、班固が意は、說文に、此倭字の本義を順貌と注したると同じくして、柔順なる故に倭人とはいふと心得たること聞ゆめり、されどそれも字につきてのおしはかりなるべし、また皇國の舊說に、此國之人、昔到彼國、唐人問云、汝國之名稱如何、自指東方答云、和奴國^{ワヌクニヤド}耶云々、和奴猶言我也、自其後謂之和奴國也、と釋。日本紀元々集などに載られたれども、これも信がたき說なり、そのゆゑは、まづ和奴國といふ名は、後漢書にはじめて見えて、倭國之極南界也とあれば、皇國の内の一國の名なるを、唐書などにこゝろえあやまりて、皇國の舊の大號のごとく書るを、そののちみな此誤りを傳へて、かしこにてもこゝにても、たゞさる事とのみ思ひ居るは、いみじきひがことなり、この事おのれ駄戎慨言につばらかに辨へ論へり、されば倭奴は、もとより國名にまれ、又我といふ意にて答へたるにまれ、皇國の内の一國の名なれば、これをもて、大號の倭てふ意を説べきにあらず、又或說に、倭奴國を唐國の音にていへば、於能許にて磤馭^{オノゴロ}盧島といふ事なりといへるもひがことなり、磤馭^{オノゴロ}盧島は、大八洲より先には出來つれども、淡路島のほとりにある一つの小島の名にて